

## 博物館のあり方についてこれまでの取り組み

町田市立博物館は、1973年に「町田市郷土資料館」として開館しました。

1976年に、館の活動にさらなる広がり発展性を持たせるため「町田市立博物館」と改称し、以後は郷土資料だけでなくガラスや陶磁器などの工芸美術品についても展示・収集を行ってきました。

2000年代に入ると、老朽化や狭隘化が博物館の運営を続ける上での課題となり、2008年に実施された「事業仕分け」では、本来の役割を果たせていないことから「不要」と評価されました。

町田市は「事業仕分け」での指摘を踏まえ、市にとっての博物館の位置づけを明確化し、より市民に親しまれるものにするため、博物館機能を再編することにしました。そして、次のような流れで検討を進めてきました。

年度	検討内容
2008	● 町田市博物館等の在り方検討委員会 博物館機能の再構築に向け、庁内組織を設置し、課題抽出や論点整理を実施。
2009	● 「町田市立博物館に関する意識調査」の実施 築35年が経過し建物の老朽化が進んでいることを機に、町田市にふさわしい博物館のあり方について市民のご意見を聞き、今後のあり方や運営の指針となる計画の基礎資料とするため、2009年5月から6月にかけて実施。 18歳以上の町田市民2,000人（無作為抽出）に調査票を郵送、回答率は35.8%（716通）  <調査結果のまとめから抜粋> <ul style="list-style-type: none"><li>● 博物館を知っている人は7割だが、行ったことがある人は全体の4割。</li><li>● 博物館を知っていながら訪れていない人のうち、3人に1人は交通の便が悪いことを理由に挙げた。</li><li>● 将来的に博物館がどこに建設されると良いかの回答としては「大きな公園の中やそれに隣接する場所」が最も多い。</li><li>● 設備への要望としては「広くてゆとりがあり、リラックスできる雰囲気がある」が最も多い。次いで「子どもが楽しく学んだり、自由に遊べる仕掛けやスペースがある施設」が多い。</li></ul>
2010	● 町田市の博物館等の新たな在り方構想検討委員会

年度	検討内容
	<p>外部有識者により組織。これからの「文化芸術のまち」に向けた道のりの中で、博物館がどうあるべきなのか、「新しい博物館」の果たすべき役割は何か等について、展示機能をもつ市の施設を「美術系」「歴史民俗系」「自然系」の3分野に整理して検討を進めた。</p> <p>&lt;「美術系」の主な課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 美術系の機能の連携による「美術ゾーン」を形成し、事業コストの削減、集客力の強化などの相乗効果を高める</li> <li>• 博物館の美術工芸資料の保管場所の確保が急務</li> <li>• バリアフリー、アクセスの向上が求められる</li> </ul>
2011	<p>● 新しい博物館の基本構想として「町田市における博物館機能の再整備に向けた調査・検討報告書」を策定</p> <p>「町田市文化芸術振興施策の基本方針」や「町田市の博物館等の新たな在り方構想」の検討結果を踏まえ、美術ゾーンの形成に向け、美術工芸部門における新しい博物館の整備に着手する方向性を定めた。</p> <p>また、国際版画美術館との2館により「美術ゾーン」の形成を図る観点から、対をなす名称が効果的と考え、新しい博物館の名称を「(仮称)町田市立国際工芸美術館」と表現した。</p> <p>&lt;基本理念&gt;</p> <p>「暮らしの中の知恵と美」の探求</p> <p>&lt;基本方針&gt;</p> <p>知恵と美のエッセンスにあふれる「もの」に光をあてていきます  「暮らしの中の知恵と美」を解き明かしていきます  わたしたちの暮らしと結びつけ、町田の文化の発展に貢献します</p>
2012	<p>● 美術館の建設候補地の検討</p> <p>芹ヶ谷公園内の町田荘跡地、国際版画美術館北側、高ヶ坂都営住宅跡地の3か所を候補地として検討した。</p>
2013	<p>● (仮称) 国際工芸美術館整備に向けた基本的な方向性の決定</p> <p>市の経営会議において、ガラスと陶磁器を主なテーマとした美術館を芹ヶ谷公園内に整備し、国際版画美術館との「美術ゾーン」形成による相乗効果を増強すること、有識者委員会を組織して工芸美術館の機能、設備、運営等について検討し、基本計画を策定すること等を示した。</p>
2013 ～ 2014	<p>● (仮称) 町田市立国際工芸美術館整備基本計画検討委員会</p> <p>工芸史、文化財、建築など、各分野の学識経験者により組織。</p> <p>並行して市民説明会(2回)、ガラス制作体験ワークショップ(4回)</p>

年度	検討内容
	を実施。2013年3月から4月にかけて、計画の素案に対する市民意見募集を実施。
2014	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「(仮称) 町田市立国際工芸美術館整備基本計画」の策定 美術館の整備や事業運営を進めていくにあたっての基本的な考え方をまとめた基本計画を策定した。 建設候補地については、駅からのアクセスや中心市街地との回遊性を重視し、国際版画美術館北側とすること、今後、町田荘跡地の有効利用について検討を進めること等を定めた。</li> </ul>
2015	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 基本設計の実施 2015年9月、11月、2016年2月に市民説明会を実施。</li> </ul>
2016	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自然環境調査の実施 (仮称) 国際工芸美術館整備に際し必要となる「東京における自然の保護と回復に関する条例」に基づく自然環境調査を実施</li> </ul>
2018	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 美術館の整備を、公園のあり方と一体的に検討する考え方への転換 2018年6月議会で(仮称) 国際工芸美術館のあり方に対し様々な課題等が指摘され、実施設計に係る予算が否決された。 そこで、(仮称) 国際工芸美術館の整備として単体でとらえるのではなく、“子ども”と“体験”という新たな視点を取り入れ、まちなかとのつながりや回遊性なども含め、総合的な視点から公園のあり方と一体的に検討することし、基本設計についても見直すこととした。</li> </ul>
2019	<ul style="list-style-type: none"> <li>● (仮称) 国際工芸美術館の要件整理</li> <li>● 基本設計(その2)の実施(～2020年度)</li> <li>● “芸術の杜”コンセプトを「町田の自然と文化に出会える パークミュージアム」と命名</li> </ul>
2020	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 実施設計開始</li> </ul>
2021	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域の方々との対話を重ねる中で、市民の方々からいただいた意見をより反映させるため、2021年8月より、実施設計業務を一時的に中断。</li> </ul>
2022	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 実施設計を再開し、完了に向け実施中</li> </ul>